



さて箱根は静かな旅でした。茅葺きの門をくぐったところに大きな部屋が二間ある茅葺きの母屋があって、庭を少し行くと離れの茶室でワンセットそれだけという宿でした。障子なんて久しぶりです。温泉はどちらも流れ放題で湯上がりに縁側から庭を見ていると、雪が舞ってきました。庭の直径1m以上もある木々などが雪に霞む様を見ながら暗くなってゆくなって正に正しい日本の風景です。軽くスケッチしている脇ではやはり浴衣に丹前姿の二人がきっちり正座して囲碁を楽しんでいる。一人は、学生の時カトマンズに車が3台しかなかった頃のヒマラヤを目指して仲間たちと船で旅立った明るい男、もう一人は、世界の旅の途中、日本が気に入って居着いてしまって日本の奥さんと一緒になって15年のスエーデンの髭面男。ここは静かな時間が流れて行きます。

振り向くと、こっちは相変わらず女たちの笑顔が各種お菓子、果物、飲み物に埋もれてにぎやかだ。そろそろ今年の旅の計画をつくらなければいけないと思う。このところネパールにいていなかったので今年に行こうか。話を聞いているとなんだか大きなテントを持って行って劇をやるらしい。配役まで決めていた。シエルパヤポーター連中はさわぐのが好きだから喜ぶだろうし、飛び入りで何かやるだろう、そういえばこの前はサリーを借りて女装して元気に踊っていたポーターもいたな。あのときはみんな空き瓶にスプーンを立てて叩いて伴奏していたのでガラス片が飛び散っていたっけ。また、飲めや踊れやとなるのだろう。踊らねばいかんだろうししんどいことだ。そしてその夜もにぎやかに宴会が続き、ふっと気づくとスエーデンの髭男が順番に女性陣全員のあんなま係りとなって汗をかいて奮闘していた。夜半に茶室に移ってもう一風呂浴び、彼等と夜の庭に次々降る雪を見ながらしみじみと話をしていた。スエーデンの男の生き方、昔のネパールの話、今の東南アジアの話、毎日のこと、北海道の日々などとりとめもなく良い夜だった。翌日は車で山の上へ行くと樹氷が白く輝いていた。運転しながら元山男は「あ、髭を剃るのを忘れた。そーか、誰も剃るのがいないから気づかなかったのだなー。」と一人で納得していた。すぐに一人で納得する元気な人だ。このところ借金に借金を重ねて遊んでいるが、まあ、いいのだ。金は返せばいいが時間は帰らない。家に帰りついたらまだ百数十円が手元に残っていた。

しかし、この頃歩いていて急にめまいがして歩けなくなることがある。足がつったりして少々不安だがまあ、やりたいようにやらせてもらっているからもう良いかなと思っている。このあいだも毎月うちでやっている作文集の編集の後みんな飲みながら、「だって、倒れたら、うまいこと物を食べなきゃいいのよ。食べなきゃいっぺんに体力が落ちて行きやすくなるから。」と病院関係者の証言があった。寝込んでしまうと家族が困るのだ。断固そうしよう、いいことを聞いた。そういえば会社に入金がないとじきに体重が落ちてくる。正直なものだ、食わなくなるからなのだが、金が入るとまた太ってしまう。現金なものだ。自転車通勤を始めた時もまったく金はなく体重が5kg位減った。金がないというのはせっぱ詰まった圧迫感は相当あるのだが、心が自由にもなる。なくて元々だから、こびたり、へつらったりする理由がない。いやな仕事をわざわざがんばることもなく、気持ちのいい仕事は寝ないでもやる。電車で会社するときも片道240円浮かせるために浅草から歩くが、それも又、気持ちがいい。金はかけられるだけ人にかけてもいい。4月の12日からサンシャインで始まる教室も、昼の12時30分に終わるから、それから希望者だけで都内をゆっくり歩いてみようかと思っている。たくさんの人に出会えるだろう。もっと心が自由に生きられる方法を考えてみよう。まあ、せめて食うに困らないようにはしないといけないとは思っていますが。心おきなくすごしていきたいものです。

4月12日から「工作室」は「マイブックメイキング」として池袋のサンシャイン文化センターで行います。両国でもまた体制を立て直してやりたいと考えていますが、今、ちょっと忙しすぎてすぐには出来ないかもしれません。4月からの申込先はサンシャインシティ文化センター事務局 03-3987-2381です。

TEL/FAX 03-5600-0195 高村 哲

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

GnomesJpn@aol.com